

[シンポジウム] リオから東京へ 業種間連携における課題と展望

〈シンポジスト3〉

障害者スポーツについて

パラリンピアン

T-42 クラス 100m走 アジア記録保持者
切断者スポーツクラブ ヘルスエンジェルス所属

大西 瞳



私は2000年に心筋炎に罹り、人工呼吸器、透析、体外式ペースメーカーにお世話になりながら10か月の入院後、右足大腿切断と房室ブロックによりペースメーカーを埋め込んだ状態で退院しました。そして2001年より、現在の所属先である切断者のランニングチーム『ヘルスエンジェルス』で走り始めました。2008年頃より本格的に競技として走るトレーニングを始め、2016年リオパラリンピックに出場する事が出来ました。

幸い私は、本当に素晴らしい出会いに恵まれ、運よくスポーツを始め、そして続けて行くことが出来る環境にありました。

しかし周りを見渡すと、障害者が「スポーツを始める」「スポーツを続ける」と言う事はとても難しくハードルが高い事に気づかされます。

東京オリンピック・パラリンピックが4年後に迫る中、まだまだ誰もがスポーツを楽しむ環境が出来ているとは言えません。

住んでいる地域や運によって、諦める事が増えるのはとても残念です。

障害当事者の私が、今までみな様に頂いたエネルギーをどの様に社会に還元出来るか、これからも考えて行きたいと思います。

